

デイリーブレッド

Daily Bread



「紛争がなければ

いまでも学校に通っていたはず。

お父さんとお母さんはここにいたはず。

毎日パンが食べられていたはず。

いまごろ、わたしはあの暖かいベッドで

眠っていたはず。紛争がなければ……」

これは今も危機にさらされている紛争地帯の子どもの言葉です。この言葉を聞くと、毎日食物があり平和を享受している者としては心が痛みます。私たちには何ができるのでしょうか。世界中の子どもたちが飢えに苦しむことなく、安心して学校に通えるよう、まず祈り、そして自分にできることを始めたいと思います。『一切れのかわいたパンがあって、平和であるのは、ごちそうと争いに満ちた家にまざる。』（聖書）

Oh! Happy Day

「私は変えられました。」



三浦咲子

小学校低学年の頃の私は、自分に自信が無く外では話せないのに、家の中では話すことが好きで、自信たっぷりの長女ぶりだったそうです。しかし、一歩家を出ると、思う事をほとんど言えなくて、それでいて、ある事においては頑固で、自分の意思を変えませんでした。両親はこんな私を含めて4人の子どもを愛を持って育ててくれました。母は自分が食べなくても、子どもたちに与えてくれました。母の愛の大きさを思います。神の愛は、それ以上に偉大な愛です。イエス・キリストは神でありながら、地上に人として降りて来られ、私たちの罪の赦しのために十字架にかかれ、地上での生涯を終えて天に昇られました。それで、信じる私たちは罪が赦されて、天国へ行く特権が与えられました。

私は、教会の友人たちと互いに祈り、助け合う毎日を送れることに感謝しながら、天国を覚え毎日を送っています。最近は特に、私がクリスチャンになった頃の事を思い出します。子どもの頃は神様はおられると思っていましたが、月日が過ぎ、30歳の頃になると「自分には神様は関係ない。正直に仕事もして悪い事はしていない」と思うようになったので、母と妹にも教会に行かせないようにしていました。しかしあるきっかけで教会の集会に出席した時、牧師のお話を聞いているうちに胸がドキドキして来て、いつの間にか自分のこととして聞いていて、そして祈っていました。この日、私はイエス・キリストを受け入れました。今も神様と共に歩んでいることに平安があり感謝しています。